

1. 目的

子どもたち一人ひとりが自らの強みを知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの社会を生き抜く力を着実につける。

2. 調査概要

- (1) 調査日 令和6年4月17日(水)～4月25日(木)
- (2) 対象学年 小学校 第5・6学年
- (3) 調査内容

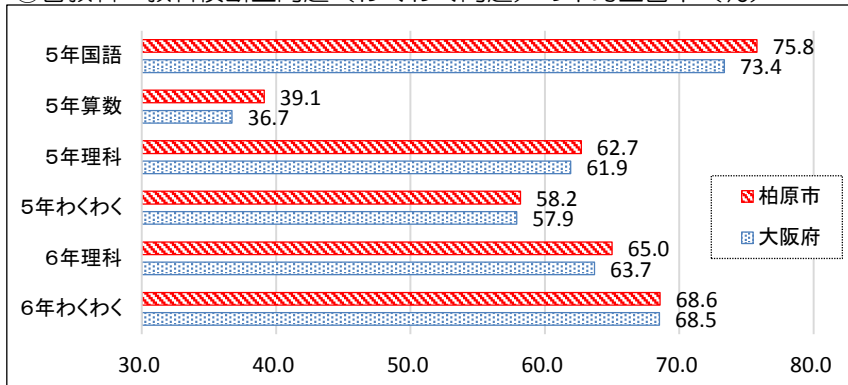
第5学年：国語・算数・理科・教科横断型問題(わくわく問題)・アンケート
 第6学年：理科・教科横断型問題(わくわく問題)・アンケート

※調査問題等は大阪府教育庁HPに掲載されています。

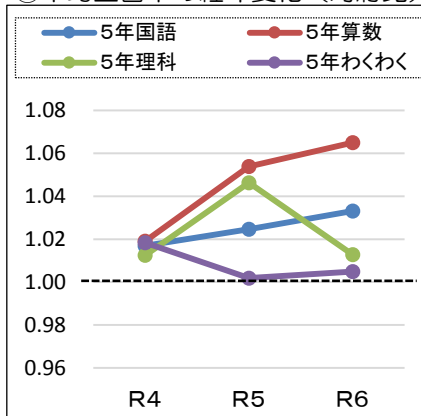
調査問題 https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/sukusuku/r6_monndai.html

結果概要 <https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/9078/r06sukusukukekkagaiyou.pdf>

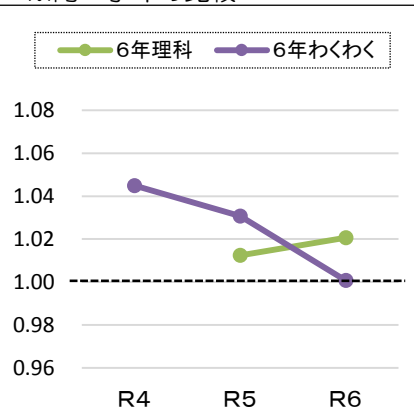
①各教科・教科横断型問題(わくわく問題)の平均正答率(%)



②平均正答率の経年変化(対府比)

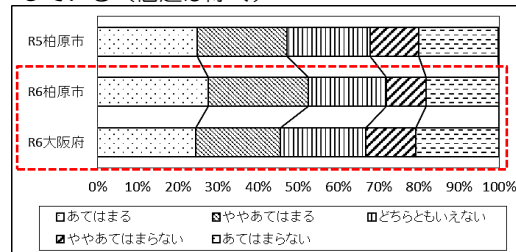


※同一学年の比較



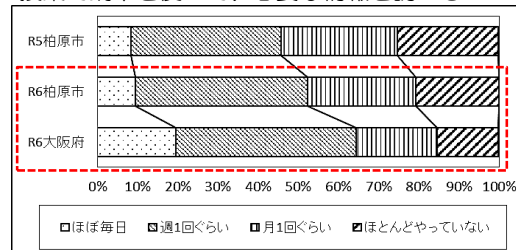
③児童アンケートの回答状況(5・6年全体)

○強みのみられる項目(大阪府との比較)
 自分でやりたい学習内容を考えて、家で勉強をしている(宿題は除く)

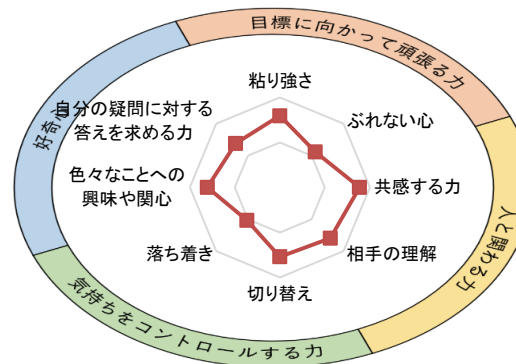


▼課題のみられる項目(大阪府との比較)

授業で端末を使って、必要な情報を調べる



【未来に向かう力と好奇心】

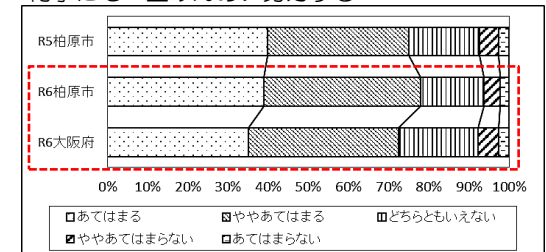


※未来に向かう力(大阪府教育庁) 非認知能力について、「目標に向かって頑張る力」、「人と関わる力」、「気持ちをコントロールする力」の3つを「未来に向かう力」として定義されています。

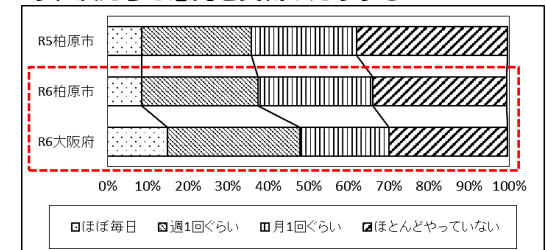
詳細な結果を記載した参考資料は市HPに掲載しています。

http://www.city.kashiwara.osaka.jp/files/00355650/R6sksk_sankou.pdf

何事にも一生けんめい努力する



授業で端末を使って、自分の考えを書きこんだり、友だちと意見を交流したりする



《結果概要》

平均正答率より

5・6年生すべての教科・わくわく問題で府の平均正答率を上回っています。

アンケートより

粘り強さ、学級の安心感、家庭での主体的な学習に強みが見られる一方、タブレット端末を活用した学習には課題が見られます。

《引き続きご家庭にお願いすること》

- ①基本的な生活習慣の定着
- ②家庭学習・主体的な学びへの支援
- ③スマートフォン等の端末の適切な利用

